

「火遊びは絶対しません!!」 防災ふれあいプラザの開催

福井県 南越消防組合消防本部

福井県の南越消防組合中消防署では9月21日(水)に、武生市の日野川河川敷公園で「防災ふれあいプラザ」を実施し、武生市内の幼年消防クラブ員約650名がお揃いの法被に身をつつんで参加しました。南越消防音楽隊の演奏で元気に「消防自動車の歌」を合唱した後、消防自動車からの放水を体験したり、煙体験をしたりと、普段は遠くから見ることしかできない消防と触れ合い、また、火事をはじめとした災害の怖さを体験しました。

最後は、全員で声を合わせて「火遊びは絶対しません」と防火の誓いをして火の用心の約束をしてくれました。

この行事を通じて、楽しみながらも、防災について学んでもらうことができ、とても実りあるものになったと思います。



[▲ このページの上に戻る](#)

ゲストティーチャー

福岡県 八女消防本部

管内の小中学校から依頼を受け、女性消防士がゲストティーチャーとして教壇に立ちました。

これは、5年生の人権学習の一環で、男女共同参画社会の実体験を話し、小学生の職業に対する固定概念を取り除こうという目的で行われました。

授業には、女性消防士のほかに女性のバスの運転士、男性看護師が参加し、マントを羽織って児童の前に登場し職業当てクイズをおこなった後、どういう想いで仕事をしているか、やりがい、誇りなどを話しました。

授業の最初は、多くの職業を「男性の仕事」「女性の仕事」「どちらでも良い仕事」と分けて考えていた児童たちも、授業の終わるころには、キラキラした眼で「どんな仕事も性別に関係なく誇りを持って、自分らしく一生懸命頑張る気持ちが大切だと思いました。」と感想を述べました。



「ファイア・パーク・イン・ノウマチ」の開催

富山県 高岡市消防本部

9月21日(水)、プールや課外活動で真っ黒に日焼けした児童の顔がそろった高岡市立能町小学校において、「ファイア・パーク・イン・ノウマチ」が開催され、少年消防クラブ員、保護者、地元消防団員など約700名が集まりました。

この「ファイア・パーク」は、火や煙の怖さ、消火方法などの火災予防に関する知識を少年消防クラブ員と保護者がいっしょになって体験し、学んでもらうために実施しています。



防火寸劇

女性消防団員が、家庭における「うっかり火災」についてユーモアたっぷりの寸劇を披露。クラブ員だけでなく保護者からも笑いがもれていました。

ユーモアながらも、うっかり火災の核心をつく内容に、真剣なまなざしの保護者も大勢見られました。

消防署員がオイルパンに火を入れ、大きな炎が上がると、驚いて悲鳴をあげる子もいましたが、「ホウキで、はくようにして、炎の下のほうを狙って消火します。」との説明に聞き入っていました。

消火器を使うような事態は避けなければなりません、いざというときには、今日の体験を生かし、落ち着いて行動してほしいと思います。



消火器体験コーナー

各体験を通しクラブ員や保護者からは、「火は怖いもの、でも大切なもの。正しく火を使うことが大切。これからも火災のない街を継続していきたい。」との声が聞かれました。

今回学んだ火災予防の知識をそれぞれが家庭へ持ち帰り、家族に伝えることによって「住宅防火」の輪がさらに広がることを心から願っています。

地域と一体となった普及啓発を展開

熊本県 天草広域連合消防本部

倉岳分遣所では、9月9日倉岳保育所幼年消防クラブと苓陽幼稚園幼年消防クラブ合同で救急チラシの配布を警察、交通安全協会、消防団、女性防火クラブ等の協力を得て、国道266号線の棚底の上揚交差点で実施しました。



クラブ員43人が、天消タオルとポケットティッシュそれに分遣所職員手づくりの救急チラシを添え、ドライバーに「救急の日です。けがや病気をしないようにしてください。」と声をかけて手渡すと、ドライバーからは思わぬ贈り物に「ありがとう」と笑顔で言葉を返され目的地に向かわれました。

五和分署では、9月9日手野保育所において、園児及び保護者40人が参加して親子救急教室を開催しました。

当園では、8歳の女の子が喉に何かを詰らせ通報時は意識がなく、チアノーゼ状態であったが保育士の背部叩打法による適切な処置により救急車が現場到着時は気道開通して一命をとりとめた例がありました。



当日は、簡単な応急手当の方法や、乳児・大人の心肺蘇生法を行い、「親子のふれあい」を深めながら命の大切さを知るとともにいざという時の対応を知ってもらおうと実施しました。

▲このページの上に戻る

第17回幼年防火まつり

宮城県 登米市消防本部

防火意識を子どものうちに身に付けてもらおうと、「幼年防火まつり」が9月16日（金）10時より、登米市の登米祝祭劇場で開催されました。

登米市幼少年婦人防火委員会などの主催で、今年で17回目をかぞえます。登米市幼少年婦人防火委員会佐々木会長は開会行事で「怖い火事を防ぎ、命を大切に作る良い子に育ててください」と述べました。

メインの催しは、消防本部の隊員らによるアクション寸劇で、正義の味方「ウォーターマン」が、園児や消防隊員と協力して悪役「火の怪獣メラミューラ」をやっつける熱演に、市内24の幼稚園や保育所・園に通う約900名の園児らは、大喜びで拍手を送りました。

このほか、火災で逃げ遅れたと想定し、県防災航空隊のヘリコプターによるつり下げ救助の実演も行われ、園児らは感心した様子で見守っていました。

この行事を通じて、消防への関心を高め、火の大切さ、火災など災害の危険性を訴え、防火防災への意識付けを行い、このことにより、幼児に対する防火、防災意識の高揚が図られました。





▲ このページの上に戻る

自衛消防隊放水競技大会を開催！

愛知県 豊橋市消防本部

豊橋市自衛消防連絡協議会では、職域防火体制の強化及び技術向上を図るため、自衛消防隊放水競技大会を開催し、本年度第39回を迎えました。

平成17年10月8日に開催されました今大会では、小型動力ポンプの部12隊、屋内消火栓男子の部6隊、女子の部3隊、2号消火栓の部11隊の合計32隊が参加し、各事業所の職員が、自隊の消防ポンプや会場内に設置された屋内消火栓、2号消火栓等を使用して実際に放水し、標的を落下させ、その安全性や速さを競いました。

当日は小雨の降りしきる中、女子の部では男子の部顔負けの活動を見せてくれました。



▲ このページの上に戻る

第22回胆沢地区婦人消防のつどい

岩手県 胆沢地区消防組合消防本部

第22回胆沢地区婦人消防のつどい（胆沢地区幼少年婦人防火委員会・胆沢地区消防組合主催 財団法人日本防火協会共催）を9月17日胆沢町の文化創造センターで行われました。

「婦人消防の防災行動力を高めよう」をテーマに、遠野市の語り部、細越雅子さんの特別講演や住宅用火災警報器について

の説明をはじめ、幼年消防クラブや婦人消防協力会委員によるアトラクションなどを行った。最後には、参加者全員で防火宣言を行い、更なる防火知識の研鑽に務め、火災の撲滅と安全社会の確立に務めることを誓いました。

つどいは、「家庭における火災予防の分野で活躍する会員が、防火意識を高め、会員相互の親睦を図り、地域社会の安全確保に役立てよう」を趣旨に、5市町村の婦人防火クラブ員を始め、幼年消防クラブ員、消防職・団員など約500人余りが参加し、開会に先立ち、玄関ホールでは住宅用火災警報器を展示し、実際に警報器を作動させるなどして今後の設置義務に向けての体験をしてもらいました。

開会式では、胆沢地区幼少年婦人防火委員会会長である、胆沢地区消防組合の菅原睦夫消防長、胆沢竹婦人消防連絡会の岩木カツ子会長が挨拶したほか、開催地の後藤完胆沢町長や日本防火協会の渡辺様から祝辞をいただきました。

岩木会長は「大災害は、何時降りかかるか分からないので、会員皆が地域防災リーダーとなれるようそれぞれが更に気を引き締め、愛すべき地域を守りましょう」と呼びかけました。

特別講演では、語り部の細越雅子さんが「ふるさとことばは心をつなぐ」と題し遠野ふるさと言葉による昔話と先人の知恵とユーモアで会場の人々の心を引き付ける講演でした。

一方住宅用火災警報器の説明では、法改正により、一般住宅にも設置義務が図られ、どのようなところに、何時までに設置しなければならないか等、スクリーンを使って細かく説明されました。

参加者一同は、知識の共有と、「防火防災意識を高め、会員相互の親睦を図ると共に、地域社会の安全確保に役立てよう」の趣旨を再認識したつどいでした。



[▲ このページの上に戻る](#)

目次

- [1. 平成17年\(1月～6月\)における火災概要\(概数\)](#)
- [2. 平成17年度 秋の叙勲](#)
- [3. 平成17年 赤坂御苑 秋の園遊会](#)
- [4. 総合防災訓練\(千葉会場・焼津会場\)](#)
- [5. 住宅用火災警報器の普及啓発に向けて、各地で婦人防火クラブ員研修会を開催](#)
- [6. 自主防災組織リーダー研修会\(香川県・徳島県\)](#)
- [7. 平成17年度婦人防火クラブ員救急講習会](#)
- [8. 道府県婦人防火クラブ連絡協議会 会長だより](#)
- [9. 第17回 全国女性消防操法大会](#)
10. 地方からの便り
- [11. あなたも危険物取扱者・消防設備士](#)
- [12. 日本防火協会からのお知らせ](#)